



公益社団法人 日本山岳会 神奈川支部
「山の日」施行記念 公開講演会

相模の山岳信仰

— 大山・八菅・山北・秋葉 —

同時開催：神奈川大学山岳部 活動報告会

日時 2017年5月20日(土) 13:30～15:30 (13:15 受付開始・予約不要)
場所 神奈川大学横浜キャンパス 3号館 305号室
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 (東急東横線 白楽駅 徒歩13分、地図裏面)

13:30 神奈川大学山岳部 (神奈川支部団体会員) 活動報告会



神奈川大学山岳部は創部87年の歴史あるクラブです。

今、山岳部員とOBは建学100周年を祝うグレートサミッツ&ジャイアンツ(略してG&G)計画に取り組んでいます。

まだ誰も達成したことのない未知なる試みで、世界の美しい山々、グレートサミッツ10峰とヒマラヤ・カラコラムに連なるジャイアンツと呼ばれる8000m峰14座すべてに登頂しようという壮大な計画です。昨年は南米ペルーのワスカラン峰に挑戦しました。

また、スポーツクライミングでは3年後のオリンピック出場を目指してワールドカップ&世界選手権等で大活躍する部員達の成果を報告します。

14:00 鈴木正崇氏講演会「相模の山岳信仰—大山・八菅・山北・秋葉—」

大山信仰(雨降山、伊勢原)は、慶長10年(1605)以降、山中の修験が坂本と蓑毛に集住して御師となり、関東・中部に信仰を広めました。近世中期以降、江戸庶民の間に大山講が結成され、男子は15歳になると必ず登拝するようになり、雨乞い・止雨・豊作祈願・商売繁昌・死者供養を願いました。

神奈川県にはこのほか、中世に遡る修験集落・八菅山(愛川町)、修験の修行が芸能化された西丹沢の「山北のお峯入り」、修験が秋葉権現を祀り火事にあわないように願って行う火渡り行事(量覚院、小田原)等が今に伝わります。

相模に展開した多彩な山岳信仰と地元に着した修験道の行事を通して、山と日本人の暮らしを考察します。

講師プロフィール

鈴木 正崇(すずき まさたか) 1949年東京都生まれ。慶應義塾大学名誉教授、日本山岳修験学会会長、日本山岳会会員。「日本の山岳信仰と修験道に関する宗教学的的研究」の業績により、平成28年度秩父宮記念山岳賞受賞。専門は文化人類学、宗教学、民俗学。『山岳信仰—日本文化の根底を探る』(中央公論新社、2015年)、『女人禁制』(吉川弘文館、2002年)等、著書・研究業績多数。



(写真提供:一般社団法人伊勢原市観光協会)



(写真提供:一般社団法人小田原市観光協会)